



菊陽町チーム準優勝

第34回熊本県障がい者ゲートボール大会

第34回熊本県障がい者ゲートボール大会が7月5日、荒木観光ホテルゲートボール場(熊本市北区)で行われました。この大会は障がい者の機能回復訓練と体力増強、相互の交流で親睦に努めることなどが目的。参加チームは16チームで競技者95人が出場しました。菊陽町からは清水司さん、山口重美さん、村田千年さん、川野徳重さん、布田英雄さん、岸田年弘さんが出場し、準優勝に輝きました。菊陽町チームは11月に開催される九州大会に熊本県代表で出場する予定です。



▲見事準優勝に輝いた菊陽町チーム

あいさつで町を元気に

青少年健全育成町民会議の早朝あいさつ運動

菊陽町青少年健全育成町民会議の早朝あいさつ運動が7月1日にJR光の森駅、2日にJR三里木駅、3日にJR原水駅で行われました。

「おはようございます」「いってらっしゃい」と会長の後藤町長と町民会議会員が、JR利用者や気持ちのいいあいさつを交わしました。

町民会議は、青少年の健全育成のため、あいさつ運動の他に夜間パトロールや夏祭りパトロール、親子ふれあい講座、研修会などを実施しています。



▲あいさつを交わし元気な声が響いたJR光の森駅

町の安全・安心に尽力

セーフティパトロール隊 防犯功労者表彰を受賞

大津地区防犯協会連合会定期会が7月2日、大津警察署で開催されました。地域の安全・安心のため防犯活動に功労のあった団体に贈られる「防犯功労者表彰式」があり、本町からは平成10年4月から防犯活動をしている「セーフティパトロール隊(代表村上力雄さん)」が受賞しました。受賞した「セーフティパトロール隊」は通学路での見守り活動をはじめ、駅周辺で自転車利用者に対し必ず鍵をかけて防犯対策をすることなどの防犯啓発活動に尽力しています。



▲光の森駅周辺で自転車の鍵かけを呼び掛ける隊員

交通ルールを守ろう

交通安全子ども自転車大津地区大会

交通安全子ども自転車大津地区大会が6月21日、大津署管内小学校を対象に本田技研工業(株)熊本製作所体育館で開催され、本町からは菊陽南小学校が出場しました。

今大会には、11校17チーム・69人が出場し、学科と実技のテストで競い合いました。実技には幅30センチの通路やジグザグ走行などが待ち受ける難関コースがあり、児童たちは練習した成果を存分に発揮させていました。



▲練習の成果を発揮した菊陽南小学校の児童たち

菊陽にんじんを視察

韓国食品研究院生はるばる菊陽町へ

韓国食品研究院生が6月26日、菊陽にんじんの視察に訪れました。韓国食品研究院とは、新しい食品科学技術を利用し韓国の農水産業や食品産業の発展に貢献することを目的に1988年にできた韓国政府直属の機関です。院生は6月23日～27日にかけて菊陽町や菊池市、佐賀県唐津市、長崎県島原市、福岡県久留米市などを訪れました。

菊陽町では農政課職員が温暖な気候と土地がにんじん栽培に適したことやにんじんの作付面積が増えていることなどを説明しました。「他でとれるにんじんと菊陽にんじんの違いは」という院生からの質問には「菊陽町のにんじんは糖度が高く、何も加えずただでくせもなくジュースにしても飲みやすい」と答えていました。その後、院生はJA菊池菊陽人参選果場を訪れ、にんじんの選果選別機や保冷庫を見学し、JA職員の説明に真剣に耳を傾けていました。院生は「保冷庫に入った瞬間ににんじんの甘い香りがしました。食べてみたら甘味が最後まで残りました。これはジュースに最適ですね」と笑顔で話しました。



▲菊陽にんじんの説明を聞く韓国食品研究院の皆さん



▲JA菊池人参選果場を訪れました

大人や先生と出会い成長する子どもたち

公立小・中学校の初任者教諭が保育体験

今年度の公立小・中学校の初任者教諭が6月24日、町立保育所で保育を体験しました。これは保育体験の研修を通して保育活動への理解を深め、学校教育活動に生かすことを目的に行われています。

今年度の公立小・中学校の初任者で菊陽町の小中学校へ赴任した教諭は12人。各小・中学校区にある保育所の白鈴保育園やさくら保育園、白菊保育園、武蔵ヶ丘第一保育園で保育体験をしました。子どもたちはいろいろな遊びをしながら教諭と楽しく触れ合っていました。白鈴保育園で保育体験をした武蔵ヶ丘中学校の高岡良一教諭は「こういう環境の中で学び、成長していくのだなと思いました。子どもたち一人一人が考えて行動していますね。ここで学んだものを学校生活に生かしていきたいです」と抱負を話しました。

他に保育園の職員と教諭との意見交換がありました。白菊保育園の山辺喜美子園長は「子どもたちはいろいろな大人、先生と出会って成長します。それだけ責任ある仕事です。子どもたちの気持ちに寄り添いながら一緒に頑張りましょう」とエールを送っていました。



1 武蔵ヶ丘第一園で子どもたちと遊ぶ緒方芳孝教諭 2 さくら園でおやつ時間を過ごす大場聡子教諭 3 白菊園での意見交換 4 白鈴園で読み聞かせをする上野元気教諭



ロサンゼルスの子もたちと交流

中央公民館主催「キッズイングリッシュ講座」

中央公民館主催のキッズイングリッシュ講座(講師：田中成美さん)の生徒などが7月12日、中央公民館でロサンゼルスの子もたちとスカイプ交流をしました。スカイプとはパソコンでする無料テレビ会話。南米楽器のケーナ演奏グループ「ケナクンパ」の演奏に合わせてくまモン体操を披露し英語で自己紹介をしました。菊陽中部小の山川琉太郎さんと妹の凜璃子ちゃんは「外国人と話したのは初めてでドキドキしたけど楽しかった。また英語で話したい」と話しました。



▲英語で自分の夢などを話す山川琉太郎くん(中央)

文化で町に貢献

第1回菊陽町文化協会チャリティショー

第1回菊陽町文化協会チャリティショーが7月5日、さんさんの湯ふれあ館で行われました。これは地域の人々と交流しながら文化を通して町に貢献することを目的に開催。チャリティ募金40,938円が菊陽町社会福祉協議会に寄贈されました。

肥後手まりやビーズ、編み物などの展示の他、歌謡や日舞、民謡、フラダンスなどのステージ披露がありました。訪れた延べ約350人の客からは「毎月してほしい」との喜びの声もあり大変好評でした。



▲大勢の客の前で堂々と踊る芳智会の皆さん

環境にやさしく EV急速充電

電気自動車充電装置が熊本空港内に設置

国内17の空港駐車場を管理する空港環境整備協会が熊本空港駐車場内に設置した電気自動車(EV)充電装置が7月1日から運用を開始しています。

このEV充電装置は急速充電するので約20分~30分で充電でき、1年程度は無料で利用できます。本協会熊本事務所の大神武夫所長は「自然環境やエネルギー資源の節約の観点からEVの普及に役立つことを期待しています。ぜひ皆さん利用してください」と話しました。



▲熊本空港駐車場内に設けられた電気自動車充電装置

地域の連携と地域づくりを目指す

地域婦人会第3回「タベのつどい」

菊陽町地域婦人会(岩根祐美子会長)が7月4日、地域の連携と地域づくりを目指すためにタベのつどいを開催しました。

開会式では後藤町長、大塚町議会議長のあいさつがありました。その後、音楽ボランティア「ぐるぐる」によるミニコンサートがあり、キーボード演奏に合わせて素晴らしい歌声を披露していました。交流会では、会員と町議会議員などと親睦を深める楽しいひとときとなりました。



▲音楽ボランティア「ぐるぐる」のミニコンサート

激しく点を奪い合う

平成26年度菊池郡子ども会球技大会

菊池郡子ども会育成連絡協議会主催の平成26年度菊池郡子ども会球技大会兼大津町・菊陽町子ども会ソフトボール大会が7月6日、菊陽町民体育館と菊陽町民グラウンドで行われました。

ソフトボール大会には大津町から4チーム、菊陽町から2チームが参加し、各町大会が行われました。菊陽町大会では、上津久礼子ども会が緑ヶ丘子ども会との激しい点の奪い合いを制して優勝。同日開催の郡大会でも、町大会で優勝した勢いをそのままに大津町の代表チームとの接戦をものにして優勝しました。

ビーチボールバレー大会では、先日行われた町大会を勝ち抜いた三里木北子ども会と南八久保子ども会が出場。大津町の代表2チームとしてのぎを削りました。大会は最終第3セットまでもつれる試合が多く、どのチームが勝ってもおかしくない状況の中、南八久保子ども会が持ち前のチームワークを発揮し優勝しました。

ビーチボールバレー大会で優勝した南八久保子ども会は、8月17日に八代市・氷川町で行われる熊本県子ども会球技大会に出場します。



▲ビーチボールバレーで優勝した南八久保子ども会



▲町・郡ソフトボール大会で優勝した上津久礼子ども会

お米や水を大切にしたい

第12回田んぼの学校in白川中流域

水土里ネット白川中流域主催の田んぼの学校in白川中流域が6月28日、菊陽町内の水田でありました。これは水土里ネットの役割や米作りなどの農業、熊本の地下水への理解を深めるために開催されています。

今回で12回目になる今事業には菊陽町と熊本市の小学生や保護者、熊本学園大学生など約70人が参加。参加者は地元農家や水土里ネットの役員から指導を受けながら一株一株丁寧に苗を植え付けていました。

水田の水が地中に浸透して地下水になる仕組みについての市川勉教授(東海大学)による講義や馬場楠堰の見学もあり、参加者は真剣に話を聞いていました。

加藤清正が整備した現代に生きる農業用水路「鼻ぐり井手」も見学し、「鼻ぐり井手」の治水の仕組みや成り立ちなど現地ボランティアガイドから普段知ることの少ない水の大切さを学んでいました。

参加した子どもたちは「今日植えたお米が育って、10月に稲刈りをするのが楽しみ。これからお米をたくさん食べて水田が増えたらいいなと思う。これからもお米や水を大切にしたい」と話していました。



1 2 丁寧に苗を植える子どもたちと保護者 3 地下水になる仕組みに興味津々の子どもたち 4 「鼻ぐり井手」でボランティアガイドの話を聞く参加者



元気な声が響く

第22回三里木北区夏まつり

第22回三里木北区夏まつりが7月19日、三里木公園で行われました。子どもみこしが公園を一回りしてスタートした夏まつり。子どもたちの元気な声が公園中に響きます。焼き鳥や焼きイカ、かき氷、スーパースクイなどの屋台が並び、ステージではフラダンスやバナナのたたき売り、じゃんけん大会、バンド演奏などで盛り上がりました。川野敬徳さん、渡邊拓さん(菊陽西小5年)は「とても楽しいです。スーパースクイも4つ取れました」と満面の笑みでした。



▲盛り上がったじゃんけん大会

みんなで育てた野菜 いただきます

白鈴保育園「カレー作り」

白鈴保育園が7月18日、同保育園でカレー作りを行いました。トマトや玉ネギ、ジャガイモ、ピーマンは保育園のそばにある畑に去年の冬植えて園のみんなで育ててきたもの。年長児16人が楽しそうににんじんやジャガイモなどの野菜を星やクマの型で切り抜いたりトマトを切ったりしていました。その後園児たちは鍋に恐る恐るカレーのルーを入れ、部屋中にカレーの匂いが沸き立つと「おいしそう！早く食べたい」と笑顔で顔を見合せていました。



▲野菜の型を切り抜く園児と先生 ▲とってもいい匂い

小まめに水を飲みましょう

健康・保険課の出前講座「熱中症予防」

健康・保険課の出前講座が7月18日、老人福祉支援センターで行われ、熱中症予防についての話がありました。出前講座とは町の仕事で町民が学びたいことを町職員などが講師になり、地域に出向いて話をします。熱中症予防には「小まめな水分補給」と「暑さを避けること」が大切などの話がありました。受講した武蔵ヶ丘7町内の老人会若竹会の28人は真剣に話を聞き、「熱中症にならないように気を付けて小まめに水分を取ろうと思う」と話していました。



▲熱中症予防についての話を聞く若竹会の皆さん

郷土の歴史と知られざる人間像を探る

第2回菊陽町高齢者大学

菊陽町中央公民館主催の第2回菊陽町高齢者大学(今村哲郎学級長)の講演会が7月16日、菊陽杉並木公園管理センターで行われました。菊陽町文化財保護委員の前田千佳子さんが「郷土の歴史と知られざる人間像を探る」と題し、古閑原の西園寺神社にある町指定文化財「西園寺左大臣実晴男随宜之墓」について講演。受講者は古文書を読み解きながら1670年頃の古閑原の様子や肥後細川家とのつながりを学び、郷土の歴史への知識を深めました。



▲前田千佳子さんの講義を真剣に聞く受講者の皆さん

地域で社会を明るく

～明るく住みよい社会をめざす～青少年のつどい

～明るく住みよい社会をめざす～青少年のつどいが7月12日に図書館ホールで開催され、関係団体や町民など約500人の参加がありました。この大会は、犯罪のない安全で安心な地域社会の構築と青少年の健全育成を目指し、「社会を明るくする運動推進大会」と「青少年のつどい」の合同開催となっています。

大会は菊陽西小学校音楽部によるオープニングセレモニーで開幕。社会を明るくする運動の啓発ビデオ上映では、罪を犯した人の立ち直りを地域で支える取り組みが紹介されました。その後、小・中学生のメッセージ発表が行われ、子どもたちは「大好きな菊陽町で夢をかなえたい」など、将来の夢や町への思いを語りました。記念講演では、シンガーソングライターの野田かつひこさんが「歌が紡ぐ命の物語～そこにはふるさとがある～」をテーマに、「ふるさと」を思う人々への歌、その思いを弾き語りで披露。優しい歌声に乗った歌詞は、来場者の心に響きました。

参加者は大会を通して、家族や地域で「支え合う心」の大切さについてあらためて理解を深めました。



1南小6年の荒川理央さんは鼻ぐり井手の周知のため「菊陽よかとこ巡りツアー」を提案2野田かつひこさんは作詞作曲に込めた思いを語る3西小音楽部の児童40人は息の合った演奏で2曲を披露した

おいしい餃子作ったよ

武蔵ヶ丘第二保育園が中国版の七夕会

武蔵ヶ丘第二保育園が7月7日、同保育園で中国版の七夕会を行いました。中国では正月や客を招くなどお祝いのときに餃子を食べることが慣習。中国出身の山本桂華さんと朱晨暉さんが本場の餃子について教えながら子どもたちと一緒に楽しく作りました。また、武蔵ヶ丘小学校の木下敬夫先生と中国出身の庄山好子さんが中国語と日本語で紙芝居「たなばたものがたり」を披露し、中国についてのクイズを出したりお話ししたりして子どもたちと交流しました。

本場の餃子は旬の野菜をたくさん使うのが一般的で、醤油やみりん、塩で味付けした豚のひき肉にミキサーで細かく刻んだショウガやネギ、セロリをたっぷり入れた水餃子を作りました。子どもたちは餃子の皮になる生地をこねて、麺棒で伸ばしていました。古閑賢太郎くんは「初めてこねて楽しかった。餃子もおいしかった」と話しました。子どもたちはお礼に「きらきらぼし」を日本語と中国語と英語で気持ちを込めて歌いました。庄山好子さんは「みんなの表情にびっくり。とても上手でした」と満面の笑みで話しました。



1生地を力いっぱいこねる2生地の伸ばし方を教える山本桂華さんと朱晨暉さん(中央)3紙芝居を読む庄山好子さんと木下敬夫先生4お礼に「きらきらぼし」を歌う5「おいしい！」と満足げの園児